

I. 著書

1. 大藏倫博, 田中喜代次. 全身持久性体力の簡易測定と評価(サイクリングエルゴメトリ), (編)前田如矢, 田中喜代次, 「健康の科学」金芳堂, 京都, pp. 175-182, 1999.
2. 大藏倫博. 成人男性とペーストレイニング, (編)田中喜代次, 野田洋平, 「ペーストレイニングのすべて 有酸素運動と無酸素運動を組み合わせた新しいエクササイズ」ミズノ株式会社, 大阪, pp. 57-59, 1998.

II. 学術論文(総説)

1. 大藏倫博. 内臓脂肪に与える運動の効果. **臨床スポーツ医学** 21:753-757, 2004.
2. 大藏倫博, 下方浩史. 肥満と癌の関係. **日本医事新報**, 第 4079 号pp. 93-94, 2002.
3. 大藏倫博, 下方浩史. ウエストサイズと死亡率. **肥満と糖尿病** 1(1):39-41, 2002.
4. 田中喜代次, 大藏倫博. 内臓脂肪型肥満者に対する運動療法の注意事項. **肥満と糖尿病** 1(1):80-82, 2002.
5. 田中喜代次, 大藏倫博. 内臓脂肪型肥満と皮下脂肪型肥満に及ぼす運動療法の効果の差. **肥満と糖尿病** 1(1):83-85, 2002.
6. 下方浩史, 大藏倫博, 安藤富士子. 長寿のための肥満とやせの研究. **肥満研究**, 7:98-102, 2001.
7. 中垣内真樹, 田中喜代次, 盧昊成, 重松良祐, 大藏倫博, 竹田正樹, 檜山輝男. 高齢者の全身持久性体力を評価することの意義. **日本生理人類学会誌**, 5:57-63, 2000.
8. 大藏倫博, 田中喜代次. 内臓脂肪と運動療法. **肥満研究**, 6:125-129, 2000.
9. 大藏倫博, 田中喜代次. 自転車エルゴメータによる体力テスト. **日本臨床増刊号「身体活動と生活習慣病」**, 58:157-161, 2000.

III. 学術論文(原著論文)

1. Tomohiro Okura, Yoshio Nakata, Keisuke Yamabuki, Kiyoji Tanaka. Regional body composition changes exhibit opposing effects on coronary heart disease risk factors. **Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology** 24:923-929, 2004.
2. Kiyoji Tanaka, Tomoaki Sakai, Yoichi Nakamura, Noriko Umeda, Dong-Jun Lee, Yoshio Nakata, Yoichi Hayashi, Tomomi Akutsu, Tomohiro Okura, Keisuke Yamabuki. Health Benefits Associated With Exercise Habituation in Older Japanese Men. **Aging Clin Exp Res** 16:53-59, 2004.
3. Kiyoji Tanaka, Tomohiro Okura, Ryosuke Shigematsu, Yoshio Nakata, Dong-Jun Lee, Seung-Wan Wee, Keisuke Yanabuki. Target value of intra-abdominal fat area for improving coronary heart disease risk factors in obese Japanese women. **Obesity Research** 12:695-703, 2004.
4. Tomohiro Okura, Yoshio Nakata, Kiyoji Tanaka. Effects of exercise intensity on risk factors for coronary heart disease and physical fitness during weight loss. **Obesity Research** 11: 1131-1139, 2003.
5. Tomohiro Okura, Michiko Koda, Fujiko Ando, Naoakira Niino, Masashi Tanaka, Hiroshi Shimokata. Association of the mitochondrial DNA 15497G/A polymorphism with obesity in middle-aged and elderly Japanese population. **Human Genetics** 113:432-436, 2003.
6. Tomohiro Okura, Michiko Koda, Fujiko Ando, Naoakira Niino, Shigeo Ohta, Hiroshi Shimokata. Association of polymorphisms in the estrogen receptor alpha gene with body fat distribution. **International Journal of Obesity** 27:1020-1027, 2003.
7. Yoshio Nakata, Kiyoji Tanaka, Ryosuke Shigematsu, Tomohiro Okura, Kazunori Ohkawara,

- Dong-Jun Lee, Seung-Wan Wee, Fusako Sawairi, Tomoko Nakanishi, Keisuke Yamabuki. Effects of weight loss program with diet and exercise on vital age in obese middle-aged women. **International Journal of Sport and Health Science** 1:89-93, 2003.
8. 李 東俊, 田中喜代次, 大藏倫博, 坂根直樹, 吉田俊秀. β 3-アドレナリン受容体の遺伝子多型と減量効果. **Health Sciences** 19:203-212, 2003.
 9. 大藏倫博, 重松良祐, 中田由夫, 坂井智明, 李東俊, 田中喜代次. 減量補助食品を使用した低エネルギー食療法と有酸素性運動が内臓脂肪型肥満女性の体組成, 体脂肪分布, 体力に及ぼす影響. **体育学研究** 48:269-280, 2003.
 10. 林 容市, 大藏倫博, 中垣内真樹, 田中喜代次. 中・高強度運動が強度を自己選択した有酸素性運動中の強度認知および生理的指標に及ぼす影響. **体育学研究** 48:299-312, 2003.
 11. Tomohiro Okura, Michiko Koda, Fujiko Ando, Naoakira Niino, Hiroshi Shimokata. Relation of resting energy expenditure with body fat distribution and abdominal fatness in Japanese population. **Journal of Physiological Anthropology** 22:47-52, 2003.
 12. Tomohiro Okura, Kiyoji Tanaka, Tomoko Nakanishi, Dong Jun Lee, Yoshio Nakata, Seung Wan Wee, Hiroshi Shimokata. Effects of obesity phenotype on the improvement of CHD risk factors in response to weight loss. **Obesity Research** 10:757-766, 2002
 13. 上原一人, 中西とも子, 渡邊寛, 中田由夫, 李東俊, 大藏倫博, 重松良祐, 田中喜代次. 月経の有無および介入方法の違いが内臓脂肪型肥満女性の減量効果に与える影響. **肥満研究**, 7:270-275, 2001.
 14. Tomohiro Okura and Kiyoji Tanaka. A Unique Method for Predicting Cardiorespiratory Fitness Using Rating of Perceived Exertion. **Journal of Physiological Anthropology** 20: 255-261, 2001.
 15. 田中喜代次, 林容市, 中垣内真樹, 大藏倫博. 若齢者および中高齢者における無酸素性代謝閾値 (AT) 出現時の呼吸数. **健康支援**, 3:94-100, 2001.
 16. Steven Loy, Miyako Tanada, Kiyoji Tanaka, Tomohiro Okura, Hosung Nho, Masaki Nakagaichi, Ryosuke Shigematsu, Ben Yaspelkis. Health and Fitness: A Question of Lifestyle? Japanese Living in Japan Compared with Japanese Living in the USA. **ACSM's Health & Fitness Journal** 5:15-19,2001.
 17. 藤本誉博, 奥野淳, 中田由夫, 田中喜代次, 重松良祐, 李東俊, 藪下典子, 天貝均, 大藏倫博. 運動と食事制限による減量が閉経後肥満女性の骨密度に及ぼす影響. **肥満研究**, 6 : 279-283, 2000.
 18. 大藏倫博, 上原一人, 和田実千, 中西とも子, 大川修一, 田中喜代次. 内臓脂肪型肥満女性に対する“有酸素性運動+エネルギー摂取制限”を用いた減量方法の意義. **肥満研究**, 6 : 173-178, 2000.
 19. 大藏倫博, 盧昊成, 中垣内真樹, 重松良祐, 張美蘭, 中西とも子, 田中喜代次. うんどう遊園を利用した体育授業が思春期生徒の体力に与える効果 - 一般体育授業との比較 -. **教育医学**, 45 : 858-862, 2000.
 20. 大藏倫博, 林容市, 和田実千, 田中喜代次. 自己選択した運動強度に対応する呼吸循環器系反応および心理的反応に与える運動習慣の影響. **体育学研究**, 45 : 201-212, 2000.
 21. 大藏倫博, 和田実千, 上原一人, 中西とも子, 田中喜代次. 有酸素性運動およびエネルギー摂取制限による減量プログラムの評価 - 冠動脈硬化性心疾患の危険因子への影響 -. **健康支援**, 2 : 12-21, 2000.
 22. 山縣美佳, 大藏倫博, 竹松亜紀子, 和田実千, 中西とも子, 田中喜代次. 肥満女性を対象とした自己管理型減量プログラムの効果 - 運動習慣の形成という視点に着

- 目して - . **健康支援**, 1 : 27-36, 2000.
23. **大藏倫博**, 松尾知明, 田中喜代次. タイプA行動パターンおよび自己効力感が自覚的運動強度を利用した強度設定と全身持久性体力評価に与える影響. **日本生理人類学会誌**, 4 : 159-164, 1999.
 24. **大藏倫博**, 重松良祐, 田中喜代次, 上原一人, 和田実千, 中西とも子, 下帯正直, 渡邊寛, 檜山輝男. 簡便な身体計測値を組み合わせた内臓脂肪面積の新たな評価指標の提案 - ウエスト囲およびウエストヒップ比との比較 -. **肥満研究**, 5: 103-109, 1999.
 25. 田中喜代次, 田中英和, **大藏倫博**, 重松良祐, 中西とも子, 下帯正直, 渡邊寛, 檜山輝男. 有酸素性運動およびエネルギー摂取制限が腹部脂肪面積に与える影響. **肥満研究**, 5: 40-45, 1999.
 26. **大藏倫博**, 林容市, 竹松亜紀子, 和田実千, 田中喜代次. 自覚的運動強度を利用した全身持久性体力評価法の有用性: 一般健常者および中年肥満女性を対象とした交差妥当性に関する検討. **教育医学**, 44 : 512-520, 1999.
 27. **大藏倫博**, 田中喜代次. 自覚的運動強度を用いた全身持久性体力推定法の総合的検討: 最大下多段階漸増負荷サイクリングテストを利用して. **体力科学**, 48 : 111-124, 1999.
 28. **大藏倫博**, 上野Mリンダ, 田中喜代次. 最大下多段階漸増負荷法による自転車運動中の自覚的運動強度を利用した全身持久性体力推定法 - 一般若年男性の検討 -. **体育学研究**, 43 : 102-116, 1998.
 29. 吉村 学, 石岡正子, 田中喜代次, 金憲経, 重松良祐, **大藏倫博**, 中塘二三生, 福永哲夫, 田中史子, 梅川常和, 坂根直樹, 吉田俊秀. 両掌間誘導BI (bioelectrical impedance) 法による体脂肪測定器の開発. **肥満研究**, 3 : 45-53, 1997.
 30. **大藏倫博**, 田中喜代次, 中垣内真樹, 佐久義昭. 中高年有疾患者を対象としたAT水準の運動強度設定に関する提案 - 自転車駆動とトレッドミル歩行という異なる運動様式を考慮に入れて -. **日本生理人類学会誌**, 1 : 27-32, 1996.
 31. 盧昊成, 檜山輝男, 張美蘭, 河谷彰子, 熊谷もりえ, **大藏倫博**, 早川洋子, 李美淑, 竹田正樹, 田中喜代次. 本態性高血圧者の健康度および体力水準 - 活力年齢・体力年齢からの検討 -. **教育医学**, 41 : 323-330, 1996.

IV. 学位論文 (2000年3月 筑波大学にて体育科学博士号取得)

全身持久性体力を推定するための新たな簡便法の開発
- 自覚的運動強度に基づく最大下多段階負荷漸増サイクリングテストの提案 -

V. その他の学術論文 (研究発表, 研究資料, グラント報告書)、用語解説、Q&A など

1. 田中喜代次, 中田由夫, **大藏倫博**, 曾根博仁. 内臓脂肪に関する最新情報. 文部科学省科学技術振興調整費報告書「地域の中高齢者における. 生活機能増進法の具体策 ~ 体力年齢の若返り法とその地位システム~」 pp. 18-19, 2004.
2. 田中喜代次, 中田由夫, **大藏倫博**, 曾根博仁. 効果的な内臓脂肪の減量方法. 文部科学省科学技術振興調整費報告書「地域の中高齢者における生活機能増進法の具体策~ 体力年齢の若返り法とその地位システム~」 pp. 56-57, 2004.
3. 厚生科学研究費健康科学総合研究事業分担研究報告書「地域在宅中高年者の安静時代謝量を求めるための推定式の作成」. 主任研究者: 下方浩史. 「地域住民における栄養評価の新たなストラテジー. 臨床および環境要因との関連」. 2003年.
4. 厚生科学研究費健康科学総合研究事業分担研究報告書「加齢に伴う安静時代謝量の変化とその関連要因」. 主任研究者: 下方浩史. 「地域住民における栄養評価の新たなストラテジー. 臨床および環境要因との関連」. 2002年.

研究業績（大藏倫博）

5. 奥野淳, 中塘二三生, 大藏倫博, 田中喜代次: 簡便法による体脂肪率の推定精度に関する検討: 4種類のBI法および皮脂厚法の比較. 体育学研究, 45: 252-261, 2000.
6. 大藏倫博: 自覚的運動強度・腹腔内臓脂肪, (編) 黒田善雄, 中嶋寛之, 小林修平, 村山正博, 河野一郎. 臨床スポーツ医学臨時増刊号「スポーツ医科学キーワード」, 16: 223, 479-480, 1999.
7. 三宅明子, 大藏倫博, 竹松亜紀子, 中西とも子, 中垣内真樹, 田中喜代次: 更年期女性を対象とした自己管理型運動の有用性. 臨床スポーツ医学, 16: 723-728, 1999.
8. 田中喜代次, 中垣内真樹, 大藏倫博, 重松良祐, 盧昊成, 金憲経: 高齢者の全身持久性体力を簡便に求める新たな方法の提案. 臨床スポーツ医学, 15: 843-848, 1998.
9. 田中喜代次, 重松良祐, 大藏倫博, 中垣内真樹, 盧昊成, 金憲経: 高齢者の総合体力(身体機能, 活力水準)を評価する指標. 臨床スポーツ医学, 15: 837-841, 1998.
10. 吉村学, 石岡正子, 重松良祐, 大藏倫博, 河谷彰子, 張美蘭, 中西とも子, 早川洋子, 磯野香代子, 田中喜代次: 両掌Bioelectrical Impedance法による体組成変化追跡の検討 第3回Body Composition研究会論文集 pp. 5-9, 1996.

VI. グラント（研究費獲得）

1. 平成20年度筑波大学若手ステップアップ支援経費「メタボリックシンドローム改善を目標とした包括的保健指導提供システムの構築」代表研究者: 大藏倫博. 120万円
2. 平成20年度財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団「スクエアステップ・エクササイズによる高齢者の認知機能改善プログラムの開発」代表研究者: 大藏倫博. 74万円
3. 平成20年度体育科学系研究プロジェクト「体力テストを活用した高齢者の認知機能スクリーニング評価尺度の開発」代表研究者: 大藏倫博. 25万円
4. 平成19年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究A）「要介護化予防を目的とした中・高齢期の身体機能改善のための包括的指針づくり」研究代表者: 田中喜代次, 分担研究者: 大藏倫博.
5. 平成19年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究C）「在宅軽度要介護者の運動実践とビタミンD補充の併用による介護予防効果に関する研究」研究代表者: 奥野純子, 分担研究者: 大藏倫博.
6. 平成19年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患総合研究事業）「心血管疾患のハイリスク患者スクリーニングのための新たな診断システムの構築とその臨床応用」主任研究者: 北 徹. 分担研究者: 大藏倫博. 100万円
7. 平成19年度厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）「生活習慣・背景因子・遺伝要因による総合的骨粗鬆症リスク診断システムの開発」主任研究者: 安藤富士子. 分担研究者: 大藏倫博. 160万円
8. ミズノスポーツ振興会研究助成金「地域支援事業における特定高齢者の身体機能評価指標および運動プログラムの開発」代表研究者: 大藏倫博. 分担研究者: 田中喜代次, 重松良祐, 藪下典子, 坂井智明. 平成18年度. 100万円
9. 財団法人 中山隼雄科学技術文化財団・平成17年度研究助成「楽しみながら脳機能活性と体力づくりを実現する高齢者向けスポーツ疑似体験型ゲームの開発」研究代表者: 重松良祐. 分担研究者: 大藏倫博. 250万円
10. 上原記念生命科学財団「メタボリックシンドロームと体力の関係」研究代表者: 大藏倫博. 分担研究者: 田中喜代次, 中田由夫, 松尾知明. 平成17年度. 200万円
11. 平成17年度COE研究助成金「肥満関連遺伝子の網羅的検討に基づくオーダーメイド

研究業績（大藏倫博）

- 減量プログラムの開発」代表研究者：大藏倫博. 100 万円
12. 平成 17 年度財団法人循環器病研究振興財団「メタボリック・シンδροームを呈する肥満者の減量効果と肥満関連遺伝子多型との関連」代表研究者：大藏倫博. 分担研究者：田中喜代次，中田由夫，堀田紀久子. 100 万円
 13. 平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患総合研究事業）「心血管疾患のハイリスク患者スクリーニングのための新たな診断システムの構築とその臨床応用」主任研究者：北 徹. 分担研究者：大藏倫博. 100 万円
 14. 平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）「生活習慣・背景因子・遺伝要因による総合的骨粗鬆症リスク診断システムの開発」主任研究者：安藤富士子. 分担研究者：大藏倫博. 150 万円
 15. 日本体力医学会プロジェクト研究「要介護化予防を目的とした身体機能改善のための指針づくり - 軽度要介護者の身体機能評価と運動プログラムの開発 - 」代表研究者：田中喜代次. 分担研究者：大田仁史，鈴木隆雄，奥野純子，大藏倫博，藪下典子. 2005 年 - 2007 年度. 150 万円
 16. 平成 17-19 年度文部科学省科学研究費補助金（若手研究B）「内臓脂肪のオーダーメイド減量プログラム及び効果的なリバウンド防止法の開発」研究代表者：大藏倫博. 総額 350 万円
 17. 三井住友海上福祉財団「つまづきによる転倒」の回避能力を向上させるスクエア・ステッピング・エクササイズ」研究代表者：重松良祐. 分担研究者：大藏倫博、金憲経. 2004 年度. 50 万円
 18. 上原記念生命科学財団「転倒と痴呆の予防効果を兼ね備えたエクササイズ・プログラムの開発」研究代表者：重松良祐. 分担研究者：大藏倫博、金憲経. 平成 16 年度. 500 万円
 19. 財団法人総合健康推進財団研究助成「遺伝的要因を考慮した高ホモシステイン血症患者に対する運動処方システムの確立」代表研究者：大藏倫博. 分担研究者：田中喜代次，Clause Bouchard，Tuomo Rankinen. 2003 年度. 50 万円
 20. 財団法人ユニバーサル財団研究助成「高齢者の健康エクササイズを“やろうという気持ち”だけに留めず，“実践する”にまで支援していくノウハウの開発」代表研究者：重松良祐. 分担研究者：田中喜代次，富樫健二，大藏倫博，和田実千. 2002 年度. 100 万円
 21. 日本体力医学会プロジェクト研究「動脈硬化危険因子の改善を目的とした腹部脂肪面積の基準値に関する研究」代表研究者：田中喜代次. 分担研究者：檜山輝男，佐々木悠，天貝均，熊谷秋三，重松良祐，大藏倫博，田中英和. 1998 年 - 2000 年度. 150 万円
 22. 水野スポーツ振興会助成金「ヒトの腹腔内脂肪面積および皮下脂肪面積を求める簡易推定式の開発」代表研究者：田中喜代次. 分担研究者：重松良祐，大藏倫博，天貝均. 1998 年度. 100 万円

VII. 学会発表

1. 北村伊都子，安藤富士子，甲田道子，大藏倫博，下方浩史. 骨塩量と筋量の関係へのエストロゲン受容体 α 遺伝子多型の影響. 第 15 回日本疫学会，大津，2004 年 1 月.
2. 北村伊都子，甲田道子，大藏倫博，安藤富士子，下方浩史. 地域在住中高年者における青年期からの体重増加と内臓脂肪量との関係についての検討. 第 15 回日本老年医学会東海地方会，名古屋，2004 年 9 月 25 日.
3. 北村伊都子，甲田道子，大藏倫博，安藤富士子，下方浩史. 地域在住中高年者にお

- ける体組成と骨塩量の関係についての検討. 第25回日本肥満学会, 大阪, 2004年9月29日, 30日.
4. 大藏倫博, 中田由夫, 李東俊, 大河原一憲, 田中喜代次. 有酸素性運動と肥満タイプが腹部脂肪の減少に与える影響: The SMART Study. 第25回日本肥満学会, 大阪, 2004年9月.
 5. 中田由夫, 李東俊, 大藏倫博, 大河原一憲, 田中喜代次. β_3 -AR遺伝子多型が体重減少の抵抗性に与える影響: The SMART Study. 日本肥満学会, 大阪, 2004年9月.
 6. Shigematsu R, Tanaka K, Nakagaichi M, Okura T, Hayashi Y. Assessment of cardiorespiratory endurance fitness by simple questionnaire for middle-aged and older adults. 2004 International Sport Science Congress. Chungnam National University, Daejeon, Korea. June 18-20, 2004.
 7. Shigematsu R, Okura T, Kumagai S, Kai Y, Hiyama T, Sasaki Y, Amagai H, Tanaka K. Cutoff values of intra-abdominal fat area for the prevention of metabolic disorders in women. American College of Sports Medicine 51st Annual Meeting, Indianapolis, June 2004.
 8. Okura T, Rankinen T, Lussier-Cacan S, Davignon J, Leon AS, Rao DC, Skinner JS, Wilmore JH, Bouchard C. Effect of regular aerobic exercise on plasma homocysteine concentrations: The HERITAGE Family Study. American College of Sports Medicine 51st Annual Meeting, Indianapolis, June 2004.
 9. T Okura, Y Nakata, K Tanaka. Effects of exercise intensity on body composition and risk factors for coronary disease during weight-loss. American College of Sports Medicine 50th Annual Meeting, San Francisco, June 2003.
 10. Y Hayashi, K Tanaka, M Nakagaichi, T Okura. Influence of moderate- or high intensity exercise on RPE during a self-selected aerobic exercise. American College of Sports Medicine 50th Annual Meeting, San Francisco, June 2003.
 11. R Shigematsu, M Nakagaichi, T Okura, Y Nakamura, T Sakai, K Tanaka. Reference value for dynamic valance obtained from functional reach test in older adults. American College of Sports Medicine 50th Annual Meeting, San Francisco, June 2003.
 12. 甲田道子, 大藏倫博, 安藤富士子, 新野直明, 下方浩史. 高齢者の部位別身体組成の特徴. 日本老年医学会, 名古屋, 2003年6月.
 13. 甲田道子, 大藏倫博, 安藤富士子, 新野直明, 下方浩史. 中高年地域住民における身体各部の重量およびその比率. 日本健康支援学会, 福岡, 2003年2月.
 14. 安藤富士子, 大藏倫博, 下方浩史, 甲田道子. **Andropause**の身体的・医学的特徴～中年期と高齢期の比較～. 日本健康支援学会, 福岡, 2003年2月.
 15. 大藏倫博, 安藤富士子, 新野直明, 下方浩史, 甲田道子. エストロゲン受容体 α の遺伝子多型と肥満指標との関係. 日本疫学会, 福岡, 2003年1月.
 16. 大藏倫博, ワークショップ「分散分析」. 日本体育学会, 埼玉, 2002年10月.
 17. 大藏倫博, 甲田道子, 安藤富士子, 新野直明, 下方浩史. エストロゲン受容体 α の遺伝子多型と肥満指標との関係. 日本肥満学会, 京都, 2002年10月.
 18. 体力医学プロジェクト研究成果報告(シンポジウム形式)日本体力医学会, 高知, 2002年9月.
 19. 林容市, 中垣内真樹, 大藏倫博, 田中喜代次. 強度を自己選択した運動時における自覚的疲労感と筋電図および血中乳酸値との関係, 日本体力医学会, 2002年9月
 20. 大藏倫博, 甲田道子, 安藤富士子, 新野直明, 下方浩史. 安静時代謝の性差および老化との関連. 老年医学会東海地方会, 名古屋, 2002年9月.

21. 大藏倫博, 甲田道子, 安藤富士子, 新野直明, 下方浩史. 安静時代謝の性差および老化との関連. 日本老年医学会, 東京, 2002年6月.
22. 林容市, 大藏倫博, 中垣内真樹, 田中喜代次. 運動経験の違いが自己選択される運動強度に及ぼす影響. 健康支援学会, 福岡, 2002年2月.
23. 甲田道子, 大藏倫博, 安藤富士子, 新野直明, 下方浩史: 内臓脂肪面積と生活習慣病危険因子との関係 - 年代による違い -. 健康支援学会, 福岡, 2002年2月.
24. 大藏倫博, 甲田道子, 安藤富士子, 新野直明, 下方浩史: 性・年齢別にみた安静時代謝と体脂肪分布の関係. 日本疫学会, 東京, 2002年1月.
25. 李東俊, 大藏倫博, 重松良祐, 中田由夫, 和田実千, 中西とも子, 田中喜代次: 更年期肥満女性における運動・食事療法の有効性 - 食行動の認知的変容 -. 第22回日本肥満学会, 群馬, 2001年10月.
26. 大藏倫博, 甲田道子, 新野直明, 安藤富士子, 下方浩史: 中高年者における安静時代謝と体組成および体脂肪分布との関係. 第22回日本肥満学会, 群馬, 2001年10月.
27. 林容市, 中垣内真樹, 大藏倫博, 田中喜代次: 言語教示を用いた運動強度調節法の妥当性について. 第56回日本体力医学会, 仙台, 2001年9月.
28. 中田由夫, 重松良祐, 大藏倫博, 和田実千, 田中喜代次: 中年肥満女性における減量と体型・体組成が骨量に及ぼす影響. 第56回日本体力医学会, 仙台, 2001年9月.
29. 大藏倫博, 甲田道子, 小坂井留美, 道用亘, 安藤富士子, 新野直明, 下方浩史: 中高年者における大腿周囲長と大腿部組成および筋力発揮特性との関係. 第56回日本体力医学会, 仙台, 2001年9月.
30. 大藏倫博, 李東俊, 中田由夫, 重松良祐, 田中喜代次: 運動様式の違いが内臓脂肪型肥満女性の腹部脂肪, 冠危険因子, 体力の改善に及ぼす影響. 第21回日本肥満学会. 名古屋, 2000年10月.
31. 大藏倫博, 田中喜代次: 内臓脂肪型肥満者における運動療法の意義. 第55回日本体力医学会, 富山, 2000年9月.
32. 李東俊, 田中喜代次, 坂根直樹, 大藏倫博, 重松良祐, 和田実千, 上原一人, 中西とも子, 吉田俊秀: $\beta 3$ アドレナリン受容体のミスセンス変異の有無が軽度肥満女性の減量効果に与える影響. 日本体力医学会関東地方会, 東京, 2000年3月.
33. 上原一人, 大藏倫博, 下帯正直, 中西とも子, 檜山輝男, 田中喜代次: 月経の有無が減量に伴う脂肪分布および冠危険因子の変化に与える影響, 第12回臨床運動療法研究会, 大阪, 2000年2月.
34. 大藏倫博, 上原一人, 和田実千, 中西とも子, 田中喜代次: 有酸素性運動が腹腔内臓脂肪に与える特異的な減少効果. 第20回日本肥満学会. 東京, 1999年10月.
35. 林容市, 大藏倫博, 中垣内真樹, 田中喜代次: 長時間運動中の呼吸困難感に関する呼気ガス諸量の動態. 第7回日本運動生理学会. 東京, 1999年10月.
36. 盧昊成, 田中喜代次, 中垣内真樹, 大藏倫博, 重松良祐, 渡邊寛, 檜山輝男: 肥満高血圧者の減量プログラムに伴う腹部脂肪面積の減少. 第54回日本体力医学会. 熊本, 1999年10月.
37. 竹島伸生, 中垣内真樹, 重松良祐, 大藏倫博, 林容市, 田中喜代次: 高齢者における週3日の油圧式サーキット運動の効果 - 活力年齢からみた検討 -. 第54回日本体力医学会. 熊本, 1999年10月.
38. 和田実千, 大藏倫博, 中西とも子, 檜山輝男, 田中喜代次: 短期減量プログラムの有効性 - 追跡調査からみた評価 -. 第11回臨床運動療法研究会. 大津, 1999年7月.

39. 大藏倫博, 田中喜代次, 上原一人, 和田実千, 中西とも子, 下帯 正直, 渡邊 寛, 檜山 輝男: 有酸素性運動およびエネルギー摂取制限による減量プログラムとその後の運動習慣が内臓脂肪や動脈硬化危険因子に与える影響. 第 11 回臨床運動療法研究会. 大津, 1999 年 7 月.
40. Okura T. and Tanaka K.: Development of a new method for predicting $\dot{V}O_{2max}$ and $\dot{V}O_{2AT}$ using RPE in Japanese men. American College of Sports Medicine, Seattle, June 1999.
41. 林容市, 大藏倫博, 中垣内真樹, 田中喜代次: 運動時の呼吸数による無酸素性代謝閾値の推定. 第 37 回体育学会茨城支部研究発表例会. 茨城, 1999 年 3 月.
42. 大藏倫博, 田中喜代次, 盧昊成, 渡邊寛, 檜山輝男: 本態性高血圧患者に対する自覚的運動強度を利用した全身持久性体力推定法の有用性. 第 37 回体育学会茨城支部研究発表例会. 茨城, 1999 年 3 月.
43. 和田実千, 大藏倫博, 竹松亜紀子, 中西とも子, 檜山輝男, 田中喜代次: 短期減量プログラム終了後の健康管理状況と効果の残存性. 第 10 回臨床運動療法研究会, 大阪, 1999 年 2 月.
44. 大藏倫博, 田中喜代次, 盧昊成, 渡邊寛, 檜山輝男: 本態性高血圧患者に対する自覚的運動強度を利用した全身持久性体力推定法の有用性. 第 10 回臨床運動療法研究会, 大阪, 1999 年 2 月.
45. 奥野淳, 中塘二三生, 渡辺完児, 大藏倫博, 金憲経, 田中喜代次: 簡便法による体脂肪率の推定精度に関する検討. 第 6 回小児BI法研究会, 東京, 1998 年 10 月.
46. 大藏倫博, 林容市, 和田実千, 田中喜代次: 個人の主観で強度を決定する「自己選択法」によるエクササイズの生理的・心理的評価. 第 53 回日本体力医学会大会, 横浜, 1998 年 9 月.
47. 中塘二三生, 渡辺完児, 金憲経, 大藏倫博, 奥野淳, 田中喜代次: Bioelectrical Impedance法による高齢者の身体組成評価. 第 46 回日本教育医学会大会. 大阪, 1998 年 8 月.
48. 和田実千, 大藏倫博, 重松良祐, 坂井智明, 竹松亜紀子, 林容市, 崔相姫, 盧昊成, 田中喜代次: 活力年齢や動脈硬化危険因子からみた肥瘦度の判定基準の検討. 第 9 回臨床運動療法研究会, 大阪, 1998 年 7 月.
49. 大藏倫博, 林容市, 和田実千, 田中喜代次: 個人の主観で運動強度を決定する「自己選択法」の提案とその生理学的評価. 第 9 回臨床運動療法研究会, 大阪, 1998 年 7 月.
50. 林容市, 中垣内真樹, 大藏倫博, 金ヒヨンス, 田中喜代次: 漸増負荷運動中の呼吸数による無酸素性代謝閾値の推定. 第 8 回臨床運動療法研究会, 兵庫, 1998 年 2 月.
51. 大藏倫博, 田中喜代次: 自覚的運動強度を利用した新しい全身持久性体力推定法の有用性. 第 8 回臨床運動療法研究会, 兵庫, 1998 年 2 月.
52. 大藏倫博, 田中喜代次: 高齢者の全身持久性評価における問題点 - サイクリングテストの場合 -. 日本生理人類学会体力研究部会, 茨城, 1997 年 7 月.
53. 大藏倫博, 重松良祐, 中塘二三生, 金憲経, 田中喜代次, 錦織法晴, 島本秀樹: 多周波数インピーダンス法を用いた日本人女性の身体組成の推定. 第 110 回日本体力医学会関東地方会, 東京, 1997 年 6 月.
54. K. Tanaka, R. Shigematsu, T. Okura, M. Chang, K. Isono, Y. Hayakawa, and K. Asano: Effects of bench step training on vital age and physical fitness age of obese women. American College of Sports Medicine. Colorado, June 1997.
55. 大藏倫博, 上野正子リンダ, 田中喜代次: 自覚的運動強度を用いた自転車運動中の無酸素性代謝閾値の推定. 第 5 回臨床運動療法研究会, 京都, 1996 年 7 月.

研究業績（大藏倫博）

56. 大藏倫博，田中喜代次：自転車運動中の仕事率に基づく酸素摂取量推定式の妥当性 - 本邦成人男性および女性を対象とした場合 - . 第4回臨床運動療法研究会，大阪，1996年2月.
57. 大藏倫博，田中喜代次，中垣内真樹，佐久義昭：慢性疾患者の全身持久性評価に関する提案 - 運動負荷様式の違いを考慮に入れて - . 日本教育医学会，三重，1995年8月.